

## 下庄をよくする会

### 1 基本データ

- 地区名 下庄地区
- 人口 8,927人 (平成27年1月)
- 世帯数 2,885世帯 (平成27年1月)
- 地区の沿革

下庄地区は大野市の北西部に位置し、勝山市に隣接している。昭和29年に2町6ヵ村が合併して大野市が誕生した時に、下庄町も大野市に編入された。

地区内には、国の九頭竜川ダム総合管理事務所や県の奥越土木事務所、奥越合同庁舎のほか、ビュークリーンおくえつ、奥越明成高等学校、大野警察署、大野郵便局等の官公庁等が集中しており、国道沿いには複数の郊外商業施設も進出している。また、中部縦貫自動車道の大野ICも当地区に設置され、平成25年3月24日に供用開始となり、これに併せ、国道157号の大野バイパス（東縦貫線）も整備された。



下庄地区の航空写真：農村地域と市街地が混在している

- 実施主体 下庄をよくする会

### 2 現状と課題

下庄をよくする会では、昭和54年の発足以来住民主体のまちづくり運動の推進に努めてきた。本年度で27回を数える下庄ま

つりは地区内の各種団体が参加し、地区を挙げての行事となっている。毎年多くの来場者でにぎわい、地区民の交流促進、団結力の強化、地区の活性化に大きな成果を上げている。

また、地区内の一人暮らし、二人暮らしの高齢者宅に手打ちそばを届ける「まごころそばサービス」、JR越美北線沿線でのタイム植栽や河川や山際の環境パトロールなどの環境美化活動など、その活動は多方面にわたり、福井県や公益社団法人日本河川協会、中日新聞社、公益財団法人日本花の会などから数々の表彰を受けている。



花のまちづくりコンクール賞表彰式

これらの活動を支えるのは、地区内の各種団体から選出される委員と33地区から推薦される地区推進委員、そして会の趣旨に賛同するまちづくり運動協力者からなる約90名の委員である。しかし、まちづくり活動への意識には差があり、一部の委員に活動が偏りがちとなっている。

また、長く活動をけん引してきた役員も年齢を重ね、より若い年齢層の参画が求められているが、思うように進んでいない。

若い世代の地域づくり活動への参加が少ないことも課題の一つである。昨年、地区内の自然や史跡などの地域資源を活用しながら、自らも楽しめるような事業を企画、実施しようという趣旨に賛同する若者たちにより「しもプロ」が結成されたが、その活

動は緒に就いたばかりであり、下庄地区の  
今後を担う後継者として育成するため、彼  
らが活動しやすい環境づくりを含め、引き  
続き支援が必要である。



木瓜川クリーン作戦(7月12日)

地場産野菜の販路拡大と地区民の交流  
の場として、平成23年度にオープンした  
「下庄青空市」は4年目を迎え、徐々に地  
域に定着してきた。周辺住民など固定客も  
増えてきたが、出品登録者数が少なく、品  
揃えが十分でないため、早い時間に売り切  
れてしまうことも少なくない。経営の安定  
化を図るため、誰でも参加できる直売所と  
して、さらに出品登録者を増やすことが懸  
案となっている。

### 3 事業の内容

#### 【後継者の育成：しもプロへの支援】

下庄地区は水資源に恵まれた地域である。  
この水の恵みに感謝し、身近な水環境に関  
心を持ってもらおうと、しもプロでは住民  
参加のイベント「みずかわ感謝祭」を企画、  
実施した。全く手探りの中で、4月から1



～2週間ごとに会議  
を開催し、数回にわ  
たる現地確認やダッ  
クレースの実験、周  
辺住民や区長宅への

あいさつ回りなど精力的に準備を重ねた。  
下庄をよくする会も当日は多数の委員がス  
タッフとして協力し、来場者からは好評を  
得ることができた。

#### ①木瓜川クリーン作戦(7月12日(日)午前 8時～11時30分)

ダックレース会場となる三角公園(月美町)  
からフォレストタウン(東中野)までの木  
瓜川流域で、陽明中学校生徒や一般ボラン  
ティアなども加わり、川の中や堤防のゴミ  
拾い、草刈りを行った。



#### ②水辺の灯りまつり(8月1日(土)午後6時 30分～9時)

下庄小学校3、4年生の作ったエコキャン  
ドルやLED電球など約1,500個を並べて  
中野清水を飾り、幻想的な景色を演出した。  
キャンドル容器の紙コップの一部には地元  
の保育園児が絵を描いたものを使った。



②木瓜川ダックレース (8月2日(日)午前  
10時30分～正午)

木瓜川に背番号をつけた約300羽のあひるのおもちゃを放流し、着順を競った。事



前にエントリー券を販売し、参加者らは自分のダックを追いかけながら川に沿ってゴールまで移動。表彰式は中野清水で行った。



④下庄キャンドルナイト (2月13日(土)  
午後5時～8時)

下庄小学校にしもプロ会員が招かれて、3、4年生にしもプロの活動を紹介したことがきっかけとなり、児童たちの自分たちも地域活性化のためにイベントを行いたいという思いではじまった、しもキッズとしもプロの共催によるキャンドルイベントも2年目を迎えた。

灯りは、しもキッズ手作りのエコキャンドルやLED電球など約2,000個の灯



しもプロとしもキッズの  
合同企画会議

りを準備した。雪不足や雨に苦労しながらも、しもプロとしもキッズ、保護者のほか陽明中学校の生徒たちも参加し、会場を装飾しました。オープニングセレモニーではしもキッズによる替え歌「キャンドルポルカ」の合唱など、児童による趣向を凝らした演出が行われた。体育館では、しもキッズがゲームコーナーを担当し、自分たちも楽しみながら来場者をもてなした。



【「ふるさと探訪 下庄の名所・史跡」「下庄の昔ばなし」の発行】

平成13年に下庄をよくする会が発行した地区内の名所や史跡の紹介冊子「下庄の名所・史跡」を、下庄をよくする会文化部が中心となって改訂し、新たに「「ふるさと探訪 下庄の名所・史跡」として発行しにことにひきつづき、昭和59年に大野市文化協会が編集した「奥越前の昔ばなし」から下庄地区ゆかりの昔ばなしを抜粋してまとめた冊子「下庄の昔ばなし」を発行しました。

【直売所「下庄青空市」の開催】

6月14日から11月15日までの毎週日曜日に、下庄公民館敷地内において「下庄青空市」を開催した。8月13日(木)にはお盆用の仏花を中心に夕市も開催した。

地区団体が開催する行事に青空市が農産物を納入するなど、地域との連携も図った。

#### 【まちづくり講演会の開催】

1月21日（木）に、「認知症と向き合った地域づくり」をテーマに講演会を開催した。講師は和泉診療所所長 山崎高宏氏。

#### 4 事業の成果

##### 【後継者の育成：しもプロへの支援】

木瓜川クリーン作戦に合わせ、周辺区でも社会奉仕を同日に実施している。区民は直接クリーン作戦に加わったわけではないが、河川清掃を行う参加者の姿を目にする事で、イベントの周知や趣旨の理解が得られたと思われる。クリーン作戦には下庄をよくする会委員だけでなく一般住民などのボランティア参加があり、ダックレースにも予想を上回る協賛金が集まるなど、地区においてしもプロの活動が好意的に受け止められた。



当日は天候に恵まれたこともあり、水辺の灯りまつり、ダックレースともに親子連れなど大勢の来場者があり、住民参加型のイベントとして成功をおさめた。

そして、みずかわ感謝祭などしもプロの活動がきっかけとなって始めた、しもキッズとの共催イベント「下庄キャンドルナイト」も継続して実施することができ、地区民をはじめ多くの人々にしもプロの活動を知ってもらうことができた。

また、しもプロ会員だけではスタッフが不足することもあり、下庄をよくする会が全面的に支援することで、両団体の交流が深まり、下庄をよくする会主催の事業に参加を呼び掛けた際には、「恩返し」として参加、協力する会員も出てくるなど、活動の幅も広がった。

##### 【「ふるさと探訪 下庄の名所・史跡」「下庄の昔ばなし」の発行】



名所・史跡啓発の一つとして「下庄の昔ばなし」という冊子を作成した。

昭和59年に大野市文化協会が発行した「奥越前の昔ばなし」という冊子が、発行が随分前であることや、大野市全域の昔話が掲

載されていることから、下庄地区の昔話のみ抜粋し、改めて1冊にまとめた。

また、文章だけでは伝わりづらいと思い、当会の文化部員が挿し絵を書いた。

挿絵が加わったことで、より一層イメージが膨らみ、子どもから大人まで楽しめる本になった。

#### 【直売所「下庄青空市」の開催】

出品者による協議会を開催し、下庄青空市のスムーズな運営に向けて意思統一を図るとともに、レジシステムの操作研修を実施し、特定の参加者にレジ業務が偏らないよう、負担軽減を図った。

青空市のオープンにあたっては、告知ポスターや下庄をよくする会



の機関紙である「下庄するべ」等で広報したが、告知前からオープン期日の問い合わせが来るなど、地域への周知が浸透してきた。

また、なじみの薄い農産物を出品する場合には、その特徴や調理方法などを紹介するチラシを添付する参加者もあり、販売の工夫もみられるようになった。

#### 【まちづくり講演会の開催】

人口減少および少子高齢化時代を迎える中で、認知症の患者数も増加してきている。

そうした中で、認知症に対する理解を深めて認知症を予防するだけでなく、認知症になるなら幸せな認知症になるということ、そして、周りの人が認知症になった場合に、どの

ような心構えで向き合うかという視点からの講演を受けた。

認知症を正しく理解して向き合い、安心して暮らせる地域を作るためには、「幸せな認知症＝正しく知る＋準備する」ことが安心な地域づくりに繋がるという講師の話に、大きくうなづく姿が見られた。



## 5 今後の展望

しもプロは、会員が知人に声掛けを繰り返したり、イベントへの参加をきっかけにしたりして、入会者も徐々に増えている。また、下庄小学校児童との共催イベント「下庄キャンドルナイト」は、児童や保護者、学校関係者からも継続してほしい意向があり、新しいしもキッズとの事業継続が期待される。会員の自主性を尊重しながら、地区内の各種団体との協力関係を強化し、若者がまちづくりに参加しやすい環境を整えたい。

地区内の名所・史跡の活用については、さらに学習を重ね、子供たちや地区外の人たちにも知ってもらえるような取り組みを検討したい。

下庄青空市は、出品者の増加と若い購買層への広報により販売額の増加を図りたい。加工品の製造については、施設の確保等課題が多いが、引き続き検討する。